

61平方メートル)を備える。保管能力は約5千ト。10月以降に本格的に移働し、当面、年間2万トの飼料用米を取り扱う。

新倉庫は、飼料用米を運搬する船舶が着岸する岸壁と、全国有数の取扱量がある家畜配合飼料の供給基地「八戸飼料穀物コンビナート」に近く、輸送コストの低減につながる。全農物流

の鈴木社長は「八戸は東北地方の畜産業の拠点になる。日本の畜産業を発展させるためにも物流面から貢献したい」、八戸臨港倉庫の大矢社長は「飼料用米は今後需要が伸びると見込んでいる。新たな需要にも対応できる」と話した。

この日の竣工式には、関係者ら約50人が出席した。(樋渡慎弥)

あおもりアワードに4社

21財団 創業、地域貢献表彰

公益財団法人21あおもり産業総合支援センターは13日、青森市の青森国際ホテルで、同センターの取り組

みや支援事例を紹介する「21あおもり産業創造フォーラム」を開いた。同センターの支援を受け、経営課

場の初競りで最高値のマグロを落札したことで知られる。講演は、県漁港漁場協会主催の研修会の一環で、県内漁協や市町村などから約150人が出席した。

した事例を紹介。「新しい漁業をしていかないと、日本の漁業の発展はない」と強調、日本の漁業技術を入件費の安い国へ移転し、現地に会社をつくり協業することなどを提案した。



題の改善や地域貢献に寄与した企業を表彰する「21あおもりアワード」に4社を選び、フォーラムの中で表彰式を行った。

ギーの木質ボイラーを開発した「サキコーポレーション」(十和田市)、高齢者向けの外出支援や介護旅行を手掛ける「池田介護研究所」(八戸市)の4社。

表彰式では、同センターの今喜典理事長が受賞企業の代表者に表彰状を手渡した。

創業部門で受賞した池田介護研究所の池田右文代表は「事業計画の作成などさまざま面で創業を支援してもらった。これからも介護、福祉の新たなサービスを生み出せるよう頑張っていきたい」と今後の抱負を語った。

今理事長(中央)と21あおもりアワードを受賞した企業の代表者

(永野悠太)

(海野良拓)